

大崎地域広域行政事務組合の沿革

昭和35年	5月 4日	古川市外 12 ヲ町村伝染病院組合設立(伝染病患者隔離収容事務)
39年	2月26日	圏域内 14 市町村により大崎地方開発連絡協議会設立(大崎地方市町村相互の連絡調整、大崎地方広域行政及び産業振興開発調査研究とその推進——昭和48年3月23日解散)
40年	1月 1日	遠田郡4町により遠田地区視聴覚教育協議会設立(視聴覚ライブラリー運営、視聴覚教育活動の普及指導に関する事業)
	4月 1日	大崎地区視聴覚教育協議会設立(古川市・加美郡・玉造郡・志田郡 10 市町村)
45年	4月 1日	大崎地区消防事務組合設立(圏域内 14 市町村)
46年	3月13日	古川市外 12 ヲ町村伝染病院組合に鳴子町加入により大崎地区伝染病院組合と名称変更
	7月21日	圏域内 14 市町村が自治省の広域市町村圏に設定され「大崎地域広域市町村圏」となる
	8月 2日	大崎地域広域行政事務組合設立(大崎広域市町村圏の振興整備に関する計画の策定及び事業実施の総合調整に関すること)
47年	3月31日	「大崎地域広域市町村圏計画」(基本構想・基本計画・実施計画)策定公表
48年	4月 1日	大崎地区伝染病院組合を大崎地域広域行政事務組合に統合
	4月 1日	大崎地区視聴覚教育協議会、遠田地区視聴覚教育協議会を大崎地域広域行政事務組合に統合し、教育委員会を設置、視聴覚教材センター開設
	4月 1日	大崎地区消防事務組合を大崎地域広域行政事務組合に統合し、次の消防機関を開設 消防本部、古川消防署、鳴子消防署、涌谷消防署、中新田消防署、鹿島台分署、岩出山分署、小牛田分署、田尻出張所、小野田出張所、荒谷派出所
	7月 1日	大崎地域広域行政事務組合粗大ごみ処理場操業開始
49年	3月20日	古川消防署三本木派出所、中新田消防署宮崎派出所開設
50年	3月20日	古川消防署松山派出所、涌谷消防署南郷派出所開設
	7月31日	大崎地区教材センターが文部大臣賞を受賞
51年	2月29日	中新田消防署色麻派出所開設
	3月31日	「大崎地域広域市町村圏計画」第二次基本計画(51年度～55年度)策定公表
	3月31日	広域市町村圏振興整備構想研究調査報告書」策定公表
	6月 1日	消防本部特別救助隊発足(隊員 7 名)
	12月 9日	東北自動車道(古川 I C～大和 I C 間上り線)救急業務開始
52年	10月26日	全国視聴覚教材コンクールにおいて、鳴子町立中山小学校作品「穴堰」(スライド)文部大臣賞(学校教育部門)を受賞
	12月14日	東北自動車道(古川 I C～築館 I C 間下り線)救急業務開始
53年	4月14日	大崎広域ほなみ園開園
54年	5月30日	大崎地域広域行政事務組合消防庁舎新築完成(消防本部・古川消防署同年 7 月 17 日移転、事務局は合同庁舎より同年 7 月 23 日移転、視聴覚教材センターは古川市中央公民館より昭和 55 年 3 月 28 日移転)
	7月20日	消防本部消防音楽隊発足(隊員 27 名)
	9月 6日	国土庁から大崎・栗原地方モデル定住圏の圏域に選定される
55年	3月31日	大崎・栗原地方モデル定住圏計画策定
	4月 1日	副管理者制を廃し、常勤の助役制を設置
56年	3月31日	「大崎地域新広域市町村圏計画」(基本構想・基本計画・実施計画)策定公表
	10月 7日	設立 10 周年記念式典
昭和57年	4月 1日	視聴覚教材センター専用施設整備完了(オーディオ室兼学習室・調整室・VTR スタジオ装置)

昭和58年	4月 1日	伝染病隔離病舎 30 床廃止, 20 床にて運営開始
60年	6月 1日	消防 119 番集中管理運用開始
	8月12日	粗大ごみ最終処分場取得(62,087 m ²)
	11月16日	中新田消防署庁舎増改築工事竣工
61年	2月17日	消防本部に鳴子ダム放流伝達用ファクシミリ装置設置
	4月 1日	職員定数条例改正(消防職員 252 人)
62年	3月30日	三本木・松山・宮崎・色麻・南郷の各派出所に無線起動装置を設置
63年	10月12日	全国視聴覚教材コンクールにおいて, 鹿島台町主婦グループ作品「品井沼干拓」文部大臣賞(社会教育部門)を受賞
平成元年	7月 1日	自治省からふるさと市町村圏に選定される
	8月30日	消防本部通信指令室に救急医療情報検索装置設置
3年	3月10日	鳴子消防署庁舎新築工事竣工
	3月15日	鳴子消防署消防訓練塔(主塔・副塔)竣工
	3月31日	「大崎ふるさと市町村圏計画」(基本構想・基本計画・広域活動計画・実施計画) 策定公表
	8月 2日	設立 20 周年記念式典
4年	4月 1日	宮城県広域航空消防応援協定・宮城県広域消防相互応援協定締結
	9月22日	消防本部に宮城県総合防災システム端末機設備設置
5年	8月 1日	大崎広域リサイクルセンター稼働
	10月29日	消防本部に宮城県地域救急医療情報システム端末機設置
	11月22日	古川消防署救急隊に救急救命士を常置
	12月 8日	古川消防署に 35m 級梯子付消防ポンプ車配備
	12月10日	古川消防署車庫増築工事竣工
	12月22日	古川消防署に高規格救急車配備
6年	4月 1日	職員定数条例改正(消防職員 260 人)
	9月13日	宮城県知事から大崎地方拠点都市地域に指定される
7年	3月28日	大崎地方拠点都市地域基本計画の承認
	4月 1日	職員定数条例改正(消防職員 300 人)
	9月 5日	緊急消防援助隊編成に救助隊 1 隊, 消火部隊 2 隊を登録
	11月 1日	中新田消防署救急隊に救急救命士を常置
8年	1月 8日	防災倉庫竣工(救急消毒室併設)
	3月22日	古川消防署の救助工作車(Ⅱ型)をⅢ型に更新
	3月31日	「大崎ふるさと市町村圏計画」改訂版策定
	4月 1日	財務会計電算システム運用開始
	8月10日	大崎ふるさと市町村圏計画を推進するため「大崎まちづくり協議会」を発足
9年	2月18日	中新田消防署に高規格救急車配備
	3月31日	大崎地方拠点都市地域建設省所管事業アクションプログラム策定
	4月 1日	大崎広域一般廃棄物最終処分場供用開始
	4月 1日	涌谷消防署救急隊に救急救命士を常置
10年	4月 1日	鳴子消防署救急隊に救急救命士を常置
	8月 8日	大崎生涯学習センター(パレットおおさき)開館(視聴覚教材センターを統合)

平成11年	2月15日	鳴子消防署岩出山分署に2B型救急車配置
	3月26日	涌谷消防署に高規格救急車配置
	3月31日	伝染病院事務を廃止
	12月 8日	鳴子消防署に高規格救急車配備
	12月20日	小牛田分署にCD-1型ポンプ車配置
12年	9月26日	緊急消防隊助隊編成を救助隊1隊、消火部隊1隊に変更
	11月29日	鹿島台分署にCD-1型ポンプ車配置
13年	2月28日	小野田出張所 2B型救急車寄贈
	3月30日	古川消防署救急1・2高規格救急車配置
	4月 1日	「新大崎ふるさと市町村圏計画」策定、消防救急通信指令システム運用開始
	7月31日	鳴子消防署に15m級梯子車配置
	8月 1日	小野田出張所に2B型救急車配置
	12月10日	中新田消防署に水槽付ポンプ車配置
14年	4月 1日	職員定数条例改正(消防職員338人)
	9月 1日	田尻出張所・三本木出張所 2B型救急車配置
	11月12日	三本木防災センターに併設した三本木出張所開所
	11月14日	涌谷消防署 水槽付ポンプ車配置
15年	3月20日	小牛田分署に高規格救急車寄贈配置
	4月 1日	小牛田分署救急隊に救急救命士常置 鹿島台分署救急隊に救急救命士常置 中新田町、小野田町、宮崎町3町が合併、加美町誕生。構成市町は1市11町に 大崎地域広域行政事務組合情報公開制度がスタート
17年	3月31日	鳴子消防署に救助資機材を搭載した救助ポンプ車配置
	4月 1日	六の国環境衛生組合、大崎中央環境組合、大崎東部環境衛生事務組合と大崎地域広域 行政事務組合が統合 加美斎場、玉造斎場、古川斎場、松山斎場、涌谷斎場の運営管理開始 組合単独の会計課を設置
18年	1月 1日	小牛田町と南郷町が合併、美里町誕生。構成市町は1市10町に
	3月31日	古川市、松山町、三本木町、鹿島台町、岩出山町、鳴子町、田尻町の1市6町が合併、 大崎市誕生。構成市町は1市4町に
	4月 1日	監査委員事務局開設
	11月 7日	助役にかわり、常勤の副管理者を置く
19年	1月29日	古川消防署 救急普及啓発車寄贈配置
	1月31日	鹿島台分署 小型動力ポンプ付水槽車配置
	3月31日	一般廃棄物処理基本計画及び汚泥再生処理センター整備に係る基本計画策定
	4月 1日	収入役から会計管理者に改める
20年	1月25日	中新田消防署に救助資機材を搭載した救助ポンプ車配置
	4月 1日	消防本部管理課、消防課、危機対策課、議会事務局、施設整備課開設
	5月31日	宮城県から大崎生涯学習センター無償譲渡
21年	1月27日	中新田消防署小野田出張所の救急車を高規格救急車へ更新
	2月17日	涌谷消防署に救助資機材を搭載した救助ポンプ車配置
22年	1月26日	古川消防署三本木出張所及び田尻出張所の救急車を高規格救急車へ更新

平成22年	4月 1日	知的障害児通園施設大崎広域ほなみ園が大崎市三本木へ移転
	7月 1日	涌谷消防署、小牛田分署、南郷派出所の3署所を統合し、遠田消防署開設
23年	4月26日	中新田消防署、色麻派出所を統合し、加美消防署開設
	10月 1日	東部汚泥再生処理センター供用開始
24年	3月31日	大崎広域市町村圏計画（第1次計画）策定
	4月 1日	福祉型児童発達支援センター「大崎広域ほなみ園」へ移行
	4月27日	古川消防署鹿島台分署、松山派出所を統合し、古川消防署志田分署開設
25年	2月14日	鳴子消防署岩出山分署新庁舎開設
	4月 1日	消防救急デジタル無線システム及び高機能消防指令システム運用開始
26年	2月21日	加美消防署小野田出張所、宮崎派出所を統合し、加美消防署西部分署開設 加美消防署西部分署開設に伴い水槽付消防ポンプ車新規配置
	3月30日	大崎広域大日向クリーンパーク竣工
	10月 1日	3事業所（西部・中央・東部）を統合し、施設管理課を新設
27年	2月17日	古川消防署田尻出張所を古川消防署田尻分署に格上げし、供用開始 古川消防署田尻分署開設に伴い水槽付消防ポンプ車新規配置
	3月 9日	大崎広域市町村圏計画（第2次計画）策定
	12月11日	「みちのくの宝島」を組合の商標として特許庁へ登録
	12月28日	大崎地域広域行政事務組合の組合章及び組合旗制定
28年	2月26日	イメージキャラクター「大崎夢っ子」を組合の商標として特許庁へ登録
29年	3月30日	大崎広域市町村圏計画（第3次計画）策定
	4月29日	大崎生涯学習センタープラネタリウムリニューアルオープン
30年	4月 1日	大崎広域新ネットワークシステムの本格運用を開始 大崎広域ほなみ園医療的ケア児受け入れ開始
	3月19日	消防本部に拠点機能形成車新規配置（総務省から無償貸与）
31年	4月 1日	大崎地域広域行政事務組合本庁舎供用開始（平成31年3月竣工） 消防本部管理課を総務課、消防課を警防課、危機対策課を防災課に改編
令和元年	7月 1日	大崎広域リサイクルセンター供用開始（令和元年6月竣工）
2年	3月19日	古川消防署の救助工作車を更新
	3月31日	大崎広域市町村圏計画（第4次計画）策定
	4月 1日	鳴子消防署に中型水陸両用車新規配置（総務省から無償貸与）
	4月30日	消防本部キャッチフレーズ「消防士は愛でできている」を制定
	6月 1日	鳴子消防署車庫開設（令和2年5月竣工）
3年	3月16日	古川消防署の35m級梯子車を更新
	8月 2日	設立50周年
4年	4月 1日	大崎広域中央クリーンセンター供用開始（令和4年3月竣工）
5年	10月29日	大崎広域中央クリーンセンターグランドオープン（令和5年10月全体竣工）
6年	4月 1日	大崎広域ほなみ園が、児童福祉法の一部改正により福祉型児童発達支援センターから児童発達支援センターに名称を変更
7年	3月31日	大崎広域市町村圏計画（第5次計画）策定